

カリフォルニア大学バークレー校 C. V. スター東アジア図書館 所蔵「家伝集」のオンライン公開と利便性を高める工夫 —国際的活用と資料間連携を目指して—

マルラ俊江（カリフォルニア大学バークレー校）

赤間亮（立命館大学アート・リサーチセンター）

北米日本研究資料調整協議会（NCC）の多巻セット・プロジェクトからの資金援助を得て、カリフォルニア大学バークレー校図書館では2018年にC. V. スター東アジア図書館所蔵の写本146冊から成る「家伝集」をデジタル化・公開した。これは、同館が1950年に購入した三井文庫旧蔵資料の一部で、書写年代は19世紀中頃、内容は徳川時代末期までに存続した公家138家のうち135家及び絶家から出た公卿約3,160名に関する系譜資料で、一般的に「諸家伝」と総称される資料の一例である。この論文では、このデジタル資料の国際的な公開を目指す過程で遭遇した問題点と利便性を高めるために行った工夫、および今後のさらなる活用の展望に言及する。

Providing Online Access to *Kadenshū* Held by the C. V. Starr East Asian Library, University of California, Berkeley and Making It More Usable —Aiming for International Use and Resource Linkage—

Toshie Marra (University of California, Berkeley)

Ryo Akama (Art Research Center, Ritsumeikan University)

With funding from the Multi-Volume Sets Project managed by the North American Coordinating Council on Japanese Library Resources (NCC), in 2018 the University of California, Berkeley Library digitized *Kadenshū* consisting of 146 volumes of hand-written manuscripts held by the C. V. Starr East Asian Library. This material was produced in the mid-19th century Japan and acquired by the Library in 1950 as a part of the Mitsui acquisition. It provides biographical information, including appointments and other administrative responsibilities within the imperial court regarding approximately 3,160 senior nobles from 135 kuge families out of all 138 that existed at the end of Tokugawa period—an example of the material generally called *Shokeden*. In this paper, we discuss problems we encountered in making this resource available to the world, the strategies we took to make it more usable, and possibility of future development.

1. まえがき

今年3月に北米日本研究資料調整協議会（NCC）は、1992年以来四半世紀続いてきた多巻セット・プロジェクト（Multi-Volume Sets Project）に替わる新たなプロジェクトとして Comprehensive Digitization and Discoverability Grants Program の構想を公表した[1]が、これに先立ち NCC では4つのパイロット・プロジェクトの資金援助を行っている。そのパイロットの一つとして、著者が勤務するカリフォルニア大学バークレー校（UCB）C. V. スター東アジア図書館では、昨年同館が所蔵する写本146冊から成る「家伝集」をデジタル化・公開した。

この論文では、この資料の概要の他、デジタル化とその公開に至る過程で遭遇したいくつかの問題や、このデジタル資料の利便性を高めるため

に行った工夫、および今後のさらなる活用の展望について述べる。

2. UCB所蔵「家伝集」について

UCB 東アジア図書館で現在一括して「家伝集」と呼んでいる写本群は、1950年に三井文庫から購入した大部なコレクション[2]の一部である。複数の手による写本で、3,160人を超える公家の人名が掲載されており、その成立は記載の人名情報から19世紀半ば頃と思われる。実のところ、これら写本146冊の表紙には、多くの場合公家の家名の下に「家伝」と直書きされた書名があるだけで、「家伝集」という書名はデジタル化するにあたってUCBで仮に付けた書名である（図1に一例として「近衛家伝」を示す）。UCBでは7,700冊に及ぶ写本コレクションが貴重書庫において一つのコレクションとしてまとめられており、その

配列は基本的に書名の総画数順であるため、「家伝集」の各冊は写本コレクション中に散在している。しかも写本コレクションの大半は未整理状態で、閲覧には国文学研究資料館が中心になって作成した仮目録[3]を頼るほかなく、利用が困難であったためデジタル化が望まれていた。

「家伝集」のデジタル公開にあたって、類似資料について調査したところ、海外からアクセス可能なものに以下の2点が見つかった。

(A) 諸家伝。正宗敦夫編纂校訂(日本古典全集/與謝野寛, 正宗敦夫, 與謝野晶子編纂校訂)。日本古典全集刊行会, 1939-40。底本に九条家と正親町家本を使い, 家伝の大半は18世紀半ばまでの情報に限られる。復刻版が数種刊行されている。

(B) 飛鳥井家譜〜冷泉家譜。東京大学史料編纂所蔵。請求番号4175-151~4175-331。太政官正院歴史課の命を受け, 各旧華族が家ごとに1875年頃提出した家譜群で, その画像は2006年頃から史料編纂所蔵史料目録データベース[4]上で公開されている。

「諸家伝」については, 朝倉治彦が『日本古典文学大辞典』で一般的に「巻冊数不定。系譜。成立年未詳。写本で伝わる。内容: 伝写本によって巻冊数・分類など一定しないが, 家別にして, かつ人名別に任免を記した公卿の系譜で, 所蔵している家々によって, 自家の条は書き継いでおり, 最終の年月は一致しない。本書では公卿にならなかった人, 早世の人も記してあり, 記事は, 公卿になった人を専ら掲げてある『公卿補任』より詳しい」と説明しており, UCB所蔵「家伝集」もその1点と数えられるべきものと思われる。

尚, 国文学研究資料館提供の日本古典籍総合目録データベース中, 「諸家伝」の著作エントリ[5]にリンクされている画像(宮内庁書陵部所蔵資料)は, 「諸家伝近代次第」として知られる寛永頃の版本のものであり, 上記の「諸家伝」写本とは区別されるべき資料であることを付記しておく[6]。



図1 UCB所蔵「近衛家伝」から

3. 「家伝集」と類似諸本との内容比較

上記(A)(B)2点とUCB所蔵「家伝集」の違いについて, 以下に幕末まで存続していた公家138家を家の系統ごとに記し[7], その家伝情報が含まれるか否かに焦点をあてて比較する。

UCB所蔵「家伝集」: 138家中, 葉室・中御門・富小路家を欠く(以下に欠如する3家の家名を[]に赤で示す)。他に絶家を含む(以下に(絶家)と示す)。

摂家流: 近衛, 九条, 二条, 一条, (絶家土佐一条), 鷹司, 醍醐, (絶家)

閑院流: 西園寺, (絶家), {三条}, 徳大寺, 今出川, 正親町三条, 三条西, 滋野井, 清水谷, 姉小路, 四辻, 橋本, 正親町, 河籬, 阿野, 小倉, 花園, 裏辻, 山本, 梅園, 大宮, 武者小路, 風早, 押小路, 高松, <西四辻>, 園池, 藪, 中園, 高丘
花山院流: 花山院, 大炊御門, 中山, 難波, 飛鳥井, 野宮, 今城

中御門流: 松木, 持明院, 園, 東園, 壬生, 高野, 石野, 石山, 六角

御子左流: 冷泉, 冷泉(下冷泉), 藤谷, 入江

日野流: 日野, 広橋, 烏丸, {柳原}, 竹屋, 日野西, 勘解由小路, 裏松, 三室戸, 外山, 豊岡, 北小路, (絶家)

勸修寺流: 甘露寺, <松崎>, [葉室], 勸修寺, 万里小路, 清閑寺, [中御門], 坊城(小川坊城), 芝山, 岡崎, 池尻, 梅小路, 堤, 穂波, (絶家)

四条流: 四条, 山科, 西大路, 鷺尾, 油小路, 榎筒, 八条, (絶家)

水無瀬流: 水無瀬, 七条, 町尻, 桜井, 山井

高倉流: 高倉, 堀河, 樋口, [富小路]

村上源氏: 久我, 中院, 六条, 岩倉, 久世, 東久世, 千種, 梅溪, 愛宕, 植松

宇多源氏: 庭田, 綾小路, 五辻, 大原, <慈光寺>

花山源氏: 白川

清和源氏: 竹内

正親町源氏: 広幡

菅原氏: 高辻, {五条}, 唐橋, 東坊城, 清岡, 桑原

平氏: 西洞院, 平松, 長谷, 交野, 石井

清原氏: 舟橋, 伏原, {澤}

安倍氏: 土御門, 倉橋

大中臣氏: <藤波>

卜部氏: 吉田, 萩原, 錦織, 藤井

丹波氏: <錦小路>

大江氏: <北小路>, {<北小路(下の北小路)>}

(絶家)

(A)「諸家伝」: 西四辻・北小路(大江氏嫡流)・松崎・慈光寺・藤波・錦小路(丹波氏嫡流)・北

小路家（下の北小路家）を欠く（上記 138 家の一覧中、欠如する 7 家の家名を<>に入れて緑で示す）。

(B) 東京大学史料編纂所所蔵家譜史料：三条・柳原・五条・澤・北小路家（下の北小路家）を欠く（上記 138 家の一覧中、欠如する 5 家の家名を{}に入れて青で示す）。

さらに型式について、公家の系譜史料は系図と歴譜型式を区別して作成されることが一般的とされ[8]、UCB 所蔵「家伝集」および (A) 「諸家伝」では専ら歴代当主の履歴が歴譜型式で記されている。一方、(B) 史料編纂所所蔵家譜史料では系図と歴譜が別建てで構成されるものが多いものの、系図型式のみの家譜もあり、家ごとに提出されたためか型式にばらつきが見られる。以下の家譜については系図型式のみで、歴譜型式の家伝を欠く：鷹司・滋野井・小倉・裏辻・山本・梅園・中園・高丘・大炊御門・中山・難波・飛鳥井・今城・松木・持明院・園・東園・高野・石野・六角・藤谷・竹屋・三室戸・勸修寺・清閑寺・芝山・池尻・梅小路・山科・西大路・鷲尾・油小路・櫛笥・水無瀬・七条・町尻・山井・高倉・堀河・樋口・中院・六条・久世・梅溪・植松・竹内・西洞院・長谷・石井・舟橋・倉橋・萩原・錦織・藤井・錦小路・北小路（下の北小路家）（上記 138 家の一覧中、(B) で歴譜型式の家伝を欠く家名に下線を引いて示す）。系図と歴譜型式で示される情報の違いを簡単に示すため、鷹司輔政（1849-1867）を例に図 2 と図 3 にそれぞれ UCB 所蔵「家伝集」および (B) 史料編纂所所蔵家譜史料から示す（わかり易くするため図 3 中、該当部分を赤で囲んだ）。輔政の履歴については、図 2 からより詳細な情報を得られるが、鷹司家における輔政の人間関係については図 3 が明瞭に示している。このように、家伝史料の利用には、歴譜と系図情報を合わせて使うとより有効になると思われる。

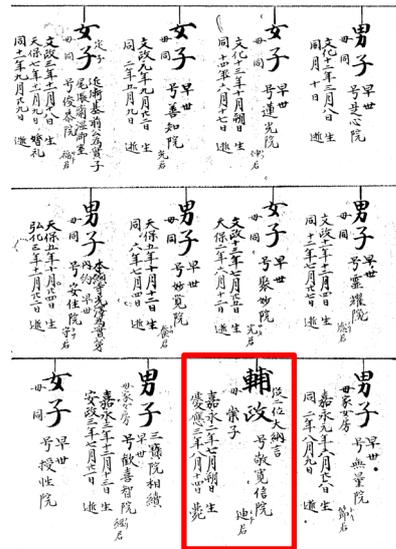


図 3 東京大学史料編纂所所蔵「鷹司家譜」から

4. 「家伝集」のデジタル化と公開と応用

4.1 「家伝集」のデジタル化と HathiTrust での画像公開

「家伝集」のデジタル化にあたり、まずは家伝 147 冊を貴重書庫から取り寄せ、ほぼ前述のように家の系統に沿って並び替え、UCB 図書館内の Imaging Services に写真撮影してもらった。撮影担当者は日本語が読めず、また和綴りの古典籍資料を扱った経験もあまりないようだった。「家伝集」の各冊はこより綴りで、大きさは概ね 22.7 x 16.3 cm ほど、墨付き丁数は数丁から多いもので 80 丁を超えるものもある。見積もりの段階では、147 冊合わせて撮影は 3,600 丁分程度かと思われていた。撮影の前に、まずは最終的にどのような画像データを作製するのかを考える必要がある。前述の通り、このデジタル化プロジェクトは、NCC が将来的に多くの米国図書館で実施可能なプログラムを推進していくためのパイロットとして資金援助を受けたものであり、ハードルはあまり高くしない方がよいと思われた。そこで、まずは多くの米国図書館がすでに参加している HathiTrust で画像公開することを一応のゴールと定めることにした。

実のところ、カリフォルニア大学は HathiTrust ですでに 126 万点を超える所蔵資料の画像を公開しており、米国内最大である[9]。日本語資料は慶應大学に次ぎ、13,500 点ほどを公開している。デジタル化のスペックについては、HathiTrust の規定に準拠して担当部署にまかせ、375ppi, Adobe RGB (1998) 8-bit color で TIFF と PDF ファイルを作製してもらうことにした。IIIF 対応についても

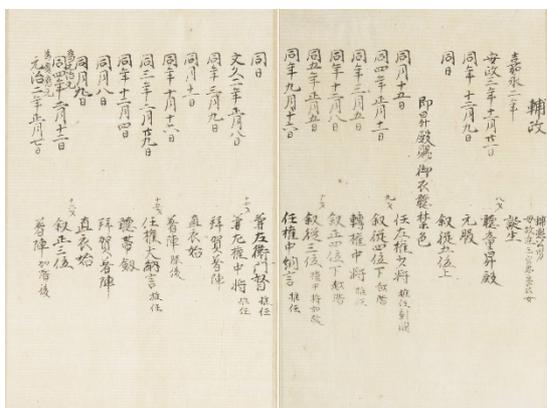


図 2 UCB 所蔵「鷹司家伝」から

たずねてみたが、当館では 2018 年時点では作製はしないが TIFF ファイルから作製可能だと言われた。日本で推奨されるスペックに比較すると少し低水準に思われる[10]が、デジタル化の作業はスムーズで、資金援助が得られてから 3 ヶ月弱の 2018 年 6 月末には HathiTrust での公開が実現した。公開後驚いたのは、資料を痛めるのを心配した撮影担当者が、見開きでなく半丁づつ撮影したため製作画像数が倍増していたことと、撮影後の処理として各画像の上下左右がトリミングされてしまっていたことで、これは残念だった。

後日さらに驚いたのは、HathiTrust で世界中に公開されていると思っていた「家伝集」が、実は HathiTrust 内の規定により、米国外には公開となっていなかった事実である。これは、「家伝集」の書誌レコード中書写年を 1800 年代として図 4 に示すように [18--?] と入力していたためで、システム的には 1899 年と同義に解釈されるらしい。HathiTrust では画像公開のポリシーとしては以下のように名言しており、米国内では 1924 年を境に公開・非公開が決まる一方、海外からのアクセスは 1879 年が基準となっている: “We are currently displaying works that are in the public domain (such as US works published before 1924), uncopyrightable works (such as works of the US government), or works where we have permission from the copyright holder... Because of differences in international copyright laws, access is also restricted for users outside the United States to works published outside the United States after and including 1879”[11].

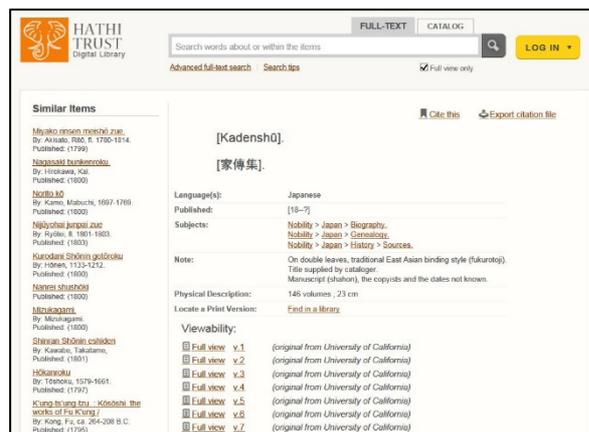


図 4 2019 年 2 月現在の HathiTrust での「家伝集」書誌レコード

上記の海外からのアクセスの問題は、後日書写年を [1875?] と変更し HathiTrust に再登録することで解決し、利用にあたってはこの資料はパブリックドメインとなるので許可申請の必要なく自由に使える[12]。同時に次に述べる別の方法でのアクセス提供を試みた。

4.2 UCB 東アジア図書館所蔵日本関連特殊コレクションのデジタル・ポータルでの「家伝集」の画像公開

上記の HathiTrust での海外からのアクセスの問題が発覚したばかりの頃、著者等は図 5 のような立命館大学アート・リサーチセンター (ARC) 提供 UCB 東アジア図書館所蔵日本関連特殊コレクションのデジタル・ポータル[13]の公開を準備していたので、ここからも画像を公開することとし、UCB 日本古典籍閲覧システム[14]に画像を登録、2018 年 9 月にはここから全頁の閲覧も可能となった。そして、ARC のシステムに搭載することで、ARC が提供する機能の活用が可能となった。



図 5 UCB 東アジア図書館所蔵日本関連特殊コレクションのデジタル・ポータル

まず、「家伝集」に掲載される人名からの検索機能の提供が望ましいと考えられたため、橋本政宣著『公家事典』(2010) や JapanKnowledge 等を参考にしつつ、ポータル内 User Memo 機能を利用して人名を手入力した。その結果、7,201 頁の画像から 3,167 名の人名入力を、著者と UCB 東アジア図書館で雇用している大学生アルバイトの 2 人でほぼ 3 ヶ月で完了できた。これにより、User Memo の検索機能を使って、全頁からの人名検索が可能となった。本システムでは、索引作成が高速であるだけでなく、人名の検索結果とその典拠にあたる画像が直接結びついて閲覧できる。利用者は即座にその人物の経歴を確認できるため、公家の人物データベースとして機能している。

図 6 に、家伝集人名検索ページでの検索結果の一例を挙げる。これは「一条家伝」からの数例だが、() 内に記された名前は『公家事典』で確認された人名で、名前の読みも事典類で確認できたものだけを入力している。このページに見える名前はすべて検索可能で、家伝内の該当頁の画像を見なければ左端の画像をクリックすれば即座に

閲覧できる。公家の人名は姓についても事典類等で複数使われていたりするため、名前だけで検索ができるこのツールは便利だとのコメントを一部の研究者からいただいている。

	Keyword 巴明寺(実録)。(えんみょうじ(さねつね))
	説明 実録は「公家事典」に拠る
	資料No. UCB-ms0038-004 (UCB-ms0038-004_003.jpg) 資料名 一統家伝
	Keyword 後光明寺(家録)。(いえつね)
	説明 家録は「公家事典」に拠る
	資料No. UCB-ms0038-004 (UCB-ms0038-004_008.jpg) 資料名 一統家伝
	Keyword 後心院(内裏)。(うちさね)
	説明 内裏は「公家事典」に拠る
	資料No. UCB-ms0038-004 (UCB-ms0038-004_013.jpg) 資料名 一統家伝
	Keyword 芬院利華院(内録)。(ふんだりけいれん(うちつね))
	説明 内録は「公家事典」に拠る
	資料No. UCB-ms0038-004 (UCB-ms0038-004_019.jpg) 資料名 一統家伝
	Keyword 後芬院利華院(経通)。(つねみち)
	説明 経通は「公家事典」に拠る
	資料No. UCB-ms0038-004 (UCB-ms0038-004_019.jpg) 資料名 一統家伝
	Keyword 後後心院(房録)。(ふさつね)
	説明 房録は「公家事典」に拠る
	資料No. UCB-ms0038-004 (UCB-ms0038-004_023.jpg) 資料名 一統家伝

図6 家伝集人名検索の結果の一例

さらに、今年2月にはデジタル・ポータル内のデジタル展示セクションに「家伝集」専用の入口[15] (図7参照) を作成し、そこから家伝集閲覧および人名検索ボタンを提供することで、この資料のビジビリティを高めるよう配慮した。



図7 デジタル展示内「家伝集」で提供されている閲覧および検索ページ

そして、さらに9月には立命館大学からの大学院生インターンの助けを得て、「家伝集紹介」ページを追加し、家の系統に沿った閲覧がより簡単にできるようになった。

現在「家伝集」閲覧ボタンをクリックすると、図8のような一覧が見える。ここでは、「国文研検索」と「東大史編本」という検索ボタンが埋め込まれており、たとえば「九条家伝」からそれぞれのボタンをクリックすると図9と図10のよう

な検索結果が得られる。

国文研検索	東大史編本	ARCR検索	小画像	資料番号	資料名	
国文研検索	東大史編本	1024画面 1280画面	Noto進行中	詳細 書誌	ms2496-1 この1冊を表示 種子の高松を表示	KonoeKaden この九かでん 近衛家伝 KonoeKaden
国文研検索	東大史編本	1024画面 1280画面	Noto進行中	詳細 書誌	ms2496-2 この1冊を表示 種子の高松を表示	くじょうかでん 九條家伝
国文研検索	東大史編本	1024画面 1280画面	Noto進行中	詳細 書誌	ms2496-3 この1冊を表示 種子の高松を表示	にじょうかでん 二條家伝
国文研検索	東大史編本	1024画面 1280画面	Noto進行中	詳細 書誌	ms2496-4 この1冊を表示 種子の高松を表示	いじょうかでん 一條家伝
国文研検索	東大史編本	1024画面 1280画面	Noto進行中	詳細 書誌	ms2496-5 この1冊を表示 種子の高松を表示	とさいじょうかでん 十位一條家伝(絶家伝)
国文研検索	東大史編本	1024画面 1280画面	Noto進行中	詳細 書誌	ms2496-6 この1冊を表示 種子の高松を表示	たかつかさかでん 廣司家伝
国文研検索	東大史編本	1024画面 1280画面	Noto進行中	詳細 書誌	ms2496-7 この1冊を表示 種子の高松を表示	daioKaden だいでかでん 醍醐家伝
国文研検索	東大史編本	1024画面 1280画面	Noto進行中	詳細 書誌	ms0768 この1冊を表示 種子の高松を表示	zekKaden ぜっかでん 絶家伝
国文研検索	東大史編本	1024画面 1280画面	Noto進行中	詳細 書誌	ms0038-01 この1冊を表示 種子の高松を表示	さいおんじかでん 西園寺家伝

図8 「家伝集」一覧から冒頭部分

【著作詳細】 戻る 検索画面

該当件数: 2件 (1-2件目)

全選択 全解除 書誌詳細

著作URL: http://dbrec.nijl.ac.jp/KTG_W_2407025

番号ID	2407025
統一書名	九条家伝(くじょうかでん)
巻冊	一冊
分類	家伝
著作注記	(綴) 美実・満教
図書館	【写】 宮書(室町時代写)
著作種別	和古書
図書館	『図書館目録』所収, 1

No. 書名, コレクション略称, 請求記号, 刊写の別, 刊年 or 書写年, 形態, 冊数, 巻次, BID, 書誌種別 自働マーク

1 九条家傳, 書院部, 20-536-2 1, 写, 1冊, 100179280 M

図9 「国文研検索」ボタンをクリックした結果

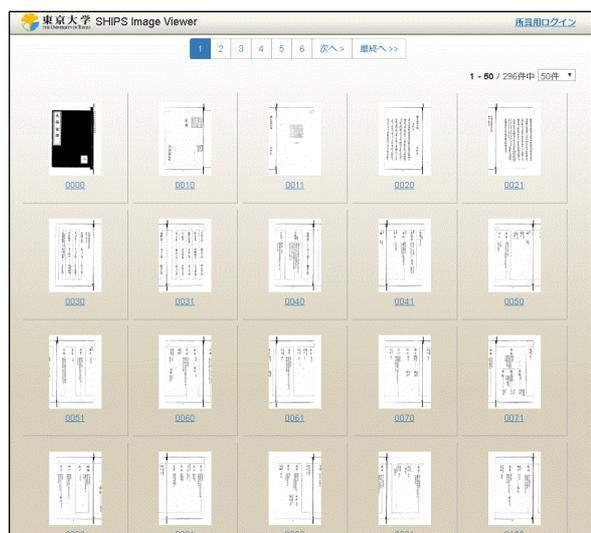


図10 「東大史編本」ボタンをクリックした結果

「家伝集」のように写本で伝わる資料について

は、とりわけ類似資料との比較検討が重要であると思われたため、「国文研検索」と「東大史編本」ボタンを一覧ページから提供することでその比較作業を容易にしようと試みた。前述のように、とりわけ東大史料編纂所蔵家譜史料群の系図史料は、歴譜型式の「家伝集」からは把握しにくい公家の家内での人間関係を明瞭に示してくれることもあり、このようにリンクすることで相互の欠陥部分を補完すると同時に資料間連携をサポートできると考える。

5. システムの特徴

本プロジェクトでは、画像を「UCB 日本古典籍閲覧システム」に搭載することで、当該システムに備わったデータ構築機能を活用できた[16]。人名の入力は、「古典籍閲覧システム」の閲覧画面で、1 頁ごとに閲覧していく。人名が出現すると User Memo ボタンをクリックすることで入力 Window が開き、直接カーソルが入力枠に移って即座に人名を入力する動作に移ることができる。

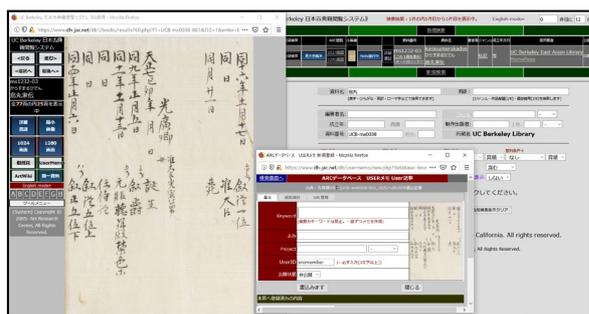


図 11 ページ閲覧画面から UserMemo を開く

画像頁へのリンクや、書名、その他のメタデータは画像頁から自動的に取得され、プロジェクトの情報は前入力値を継承する。

他のシステムが装備するアノテーションシステムと違うのは、アノテーションの位置情報を取って付与しない点である。そのため、入力者は他の作業に煩わされることなく、[閲覧→人名認識→入力]というサイクルを高速に進めることができる。

この点は、利用目的・利用者やシステム設計者によって意見は分れるところだろうが、典拠情報としては、原典のまさにその画像に戻れることが重要であり、ピンポイントでその箇所に戻るまでもなく、むしろできるだけ高速なアノテーション付与を追求したいという考え方に基づく。

入力されたメタデータは、ブラウザ上から CSV 形式で取得できるため、さらに加工して独自の人名データベースを構築したり、他の目的のために再活用したりすることも可能である。また、User

Memo 機能は、古典籍データベースだけでなく、ARC の他のデータベースにも搭載されており、ARC のシステムを利用するさまざまなプロジェクトやユーザーが活用しているが、データには、それぞれのユーザーID が記録されており、「UCB 図書館」のようなユーザーグループ単位でのデータ管理が可能である。さらには、「家伝集プロジェクト」のような UCB 図書館の中の個別プロジェクト単位で検索性データベースを独立させて利用することができるため、User Memo システム単独で本プロジェクトのような「人名検索+原典閲覧」システムを提供し、一般公開することができる。

さらに、User Memo では、各データ単位で外部リンクが設置できる。たとえば、「烏丸光広」に Wikipedia へのリンクを設置すると、図 12 のように、UserMemo のカード型表示ウィンドウ（個別詳細表示）には、「Wikipedia」ボタンが表示されるようになり、それをクリックすると直接 Wikipedia の「烏丸光広」に飛ぶ。同じ要領で、「ARC 文化人・芸能人 人物名 DB」[17]へのリンクを一括処理で加えると、「家伝集」のすべての人名索引カードに「人物名 DB」ボタンが設置されるようになる。



図 12 UserMemo カード型表示とリンクボタン

同様に「烏丸光広」を検索して、個別詳細画面を表示させ、「人物名 DB」ボタンをクリックすると、直接「文化人・芸能人 人物名 DB」を検索し、「烏丸光広」の検索結果が表示され、さらに詳細情報を表示させたのが図 13 である。



図 13 UserMemo から人物名 DB の詳細表示を開く

「人物名 DB」は、歴史上の人物の名乗を統一的に検索する DB である。たとえば、役者であれば、襲名により一人の人物が名前を変更していく。逆に長い期間に同じ名前を何人も人物が入れ代わり名乗るため、役者名の前に代数を付けることで人物を区別しなければならない。そのため、人物を特定するのは混乱を極めるが、この問題を解決するために、一人の人物が生涯の内に持ついくつもの名称を統一的に管理する目的で作成されたものである。

登録されている人物数は現状では限定されているため、「家伝集」に出現するすべての公家の人物情報が検索できるわけではないが、光広のように著名な文化人の場合、検索が可能である。

このベースの詳細表示画面には、自動的に他の関連するデータベースへのリンクが設置されており、なかでも「年譜 DB」をクリックすると、「ARC 人物年譜・年表記事データベース」[18]を直接検索し、光広の年譜が表示される。

ARC年譜・年表記事データベース						
検索条件	検索結果	検索条件	検索結果	検索条件	検索結果	検索条件
キーワード	氏名	役名	年表	年譜	家伝	画像
光広	光広 0	家伝	年表	年譜	家伝	画像
光広	光広 1	家伝	年表	年譜	家伝	画像
光広	光広 2	家伝	年表	年譜	家伝	画像
光広	光広 3	家伝	年表	年譜	家伝	画像
光広	光広 4	家伝	年表	年譜	家伝	画像
光広	光広 5	家伝	年表	年譜	家伝	画像
光広	光広 6	家伝	年表	年譜	家伝	画像
光広	光広 7	家伝	年表	年譜	家伝	画像
光広	光広 8	家伝	年表	年譜	家伝	画像
光広	光広 9	家伝	年表	年譜	家伝	画像
光広	光広 10	家伝	年表	年譜	家伝	画像
光広	光広 11	家伝	年表	年譜	家伝	画像
光広	光広 12	家伝	年表	年譜	家伝	画像
光広	光広 13	家伝	年表	年譜	家伝	画像
光広	光広 14	家伝	年表	年譜	家伝	画像
光広	光広 15	家伝	年表	年譜	家伝	画像
光広	光広 16	家伝	年表	年譜	家伝	画像
光広	光広 17	家伝	年表	年譜	家伝	画像
光広	光広 18	家伝	年表	年譜	家伝	画像
光広	光広 19	家伝	年表	年譜	家伝	画像
光広	光広 20	家伝	年表	年譜	家伝	画像
光広	光広 21	家伝	年表	年譜	家伝	画像
光広	光広 22	家伝	年表	年譜	家伝	画像

図 14 人物名 DB から年譜・年表 DB を開く

このように、一旦 UserMemo 機能を使い、人名検索用データを作成してしまえば、関連する Web 上のデータベースが連動し始め、単なる人名索引ではない、総合人名データベースの様相をみせることとなる。

現在は、まだ設置していないが、「人物名 DB」に、国文研の「古典籍総合目録データベース」の著作一覧データベースへのダイレクト検索リンクを設置すれば、その公卿の著作の一覧も即座に閲覧できるというわけである。

6. 今後の展望

上記のようなシステムの機能をさらに応用することも可能である。東大史料編纂所所蔵家譜史料群のような、関連資料が画像単位でオンライン公開されている場合、その画像へのダイレクトなリンク情報を追加することで、本プロジェクトの人名索引がそのまま外部資料の索引としても

使えるようになる。つまり、さまざまな組織が Web 上で公開している資料は、本プロジェクトのような外部のプロジェクトによって、より有効な情報を付与される可能性があるのである。ただし、相手方のシステムが、表示ページの Permalink や画像へのダイレクトな URL が取得できるかどうかが決り手である。これについては、次のプロジェクトとして進めたい。

また、「家伝集」はそれ自体で人物情報としてはよく構造化されている。この情報をデジタル化できれば、公家の人物年譜や任免の動向を可視化できる。そのためには、まずは本文の全文翻刻が求められるであろう。UCB 日本古典籍閲覧システムにはプロジェクトやグループ共同型の翻刻推進機能があり[19]、メンバーを募って全文翻刻に挑戦してみたい。

さらに、前章で述べたとおり、ARC では「年譜・年表データベース」が用意されており、「家伝集」の情報は、そのままこの年譜 DB に載せていける。全文翻刻が済んだ「家伝」単位での人物年譜を構築することも将来の展望として記しておきたい。

参考文献

- [1] NCC's Comprehensive Digitization and Discovery Grants, Council on East Asian Libraries (オンライン), 入手先<<https://www.eastasianlib.org/newsite/wp-content/uploads/2019/04/4.-NCC-NewDigitizationDiscoverabilityProject-20190303.pdf>> (参照 2019-10-11)
- [2] Sherman, R.: The Acquisition of the Mitsui Collection by the East Asiatic Library, University of California, Berkeley, Master's thesis, University of California, Los Angeles (1980).
- [3] 長谷川強, 渡辺守邦, 伊井春樹, 日野龍夫: カリフォルニア大学バークレー校旧三井文庫写本目録稿, 調査研究報告, Vol.5, pp.261-340 (1984).
- [4] 東京大学史料編纂所: 所蔵史料目録データベース, 東京大学史料編纂所 (オンライン), 入手先<<https://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/shipscontroller>> (参照 2019-10-11).
- [5] 諸家伝, 日本古典籍総合目録データベース, 国文学研究資料館 (オンライン), 入手先<http://dbrec.nijl.ac.jp/KTG_W_236953> (参照 2019-10-11).
- [6] 酒井信彦: 諸家伝近代次第」について, 東京大学史料編纂所報, Vol.21, pp.7-14 (1986).
- [7] 橋本政宣: 公家事典, 公家の制度と社会, pp.1-14, 吉川弘文館 (2010).
- [8] 酒井, 前論文, p.7.
- [9] HathiTrust Digital Library (オンライン), 入手先<<https://www.hathitrust.org/>> (参照 2019-10-12)
- [10] 一例として以下を挙げる: 国文学研究資料館: 日本語の歴史的典籍のデジタル化に関するマニュアル, 国文学研究資料館 (オンライン), 入

- 手先<https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/images/digitization-manual/digitization-manual_NIJL-201803.pdf> (参照 2019-10-11).
- [11] HathiTrust Digital Library: Help - Copyright, HathiTrust Digital Library (オンライン), 入手先<https://www.hathitrust.org/help_copyright#RightsCodes> (参照 2019-10-12).
- [12] University of California, Berkeley Library: Permissions Policies, UCB Library (オンライン), 入手先<<http://www.lib.berkeley.edu/about/permissions-policies>> (参照 2019-10-12).
- [13] カリフォルニア大学バークレー校 C.V. スター東アジア図書館所蔵日本関連特殊コレクション, 立命館大学アート・リサーチセンター(オンライン), 入手先<<https://www.arc.ritsumei.ac.jp/lib/vm/UCB/>> (参照 2019-10-12).
- [14] UC Berkeley 日本古典籍閲覧システム, 立命館大学アート・リサーチセンター(オンライン), 入手先<https://www.dhjac.net/db1/books/search_ucb.php> (2019-10-12 参照)
- [15] 家伝集, 立命館大学アート・リサーチセンター(オンライン), 入手先<<https://www.arc.ritsumei.ac.jp/lib/vm/UCB/B0/b3/>> (参照 2019-10-12).
- [16] 「UC Berkeley 日本古典籍閲覧システム」は「ARC 古典籍ポータルデータベース」の部分データベースであり, クラウド型データベースとして稼働している. そのため, 古典籍ポータルデータベースの持つ様々なツール機能は, 全て組み込まれている. ARC 古典籍ポータルデータベース, 立命館大学アート・リサーチセンター(オンライン), 入手先<https://www.dhjac.net/db1/books/search_portal.php> (参照 2019-10-20).
- [17] 文化人・芸能人 人物名データベース, 立命館大学アート・リサーチセンター(オンライン), 入手先<<https://www.dhjac.net/db/shumei/search.php>> (参照 2019-10-12)
- [18] ARC 年譜・年表記事データベース, 立命館大学アート・リサーチセンター(オンライン), 入手先<<https://www.dh-jac.net/db/chronology/search.php>> (参照 2019-10-12)
- [19] ARC 古典籍デジタル研究所内の古典籍翻刻プロジェクト, 立命館大学アート・リサーチセンター(オンライン), 入手先<<https://www.arc.ritsumei.ac.jp/lib/vm/J-book/A/>> (参照 2019-10-12)